

被災地におけるアルコール関連 問題対策の推進について

— 減酒支援の取組 —



管内は，県南部の太平洋沿岸に位置し，**名取市，岩沼市，亶理町，山元町**の2市2町からなり，人口は**167,235人**
(H27.2月住民基本台帳)



プレハブ仮設 (H27.12.31現在)

みなし仮設 (H27.12.31現在)

災害公営住宅 (H27.12.31現在)

入居戸数

入居者数

入居戸数

入居者数

計画戸数

工事
完了戸数

進捗率

名取市

502

992

362

931

716

92

12.8%

岩沼市

35

78

35

339

210

210

100.0%

亶理町

101

275

1

142

477

477

100.0%

山元町

287

638

18

50

484

373

77.1%

県全体

11,535

24,746

9,281

21,630

15,918

7,946

49.9%

I はじめに

不適切な飲酒の3つのタイプ



習慣的な
多量飲酒



酩酊に至る
飲酒



飲んではいけない
条件下での飲酒

➡ アルコール健康障害

I はじめに

飲酒運転



自死

暴言・暴力



虐待

I はじめに

アルコール関連問題の現状(全県的傾向)

- 相談件数が沿岸部市町村で震災前後で約**4**倍増加
- 健康調査等で顕在化。経済的理由や転居による孤立化などが背景にある。
- 50-60代の男性
 - 応急仮設: 5人に1人が多量飲酒者
 - 民間賃貸: 4人に1人が多量飲酒者



I はじめに

取組の背景

健康と生活に関する調査票

多量飲酒者を把握



訪問数の増加!

平成25年度
健康と生活に関する調査票

※この調査票は、宮城県と市町村が、東北大学医科歯科大学で開発された巻封を対面に
等に1封、定期的に実施しているものです。調査の結果は、健康増進等の実
施や、より充実した体制を整備するための資料とすることとしています。
※いただいた情報も、目的のために使用することはありません。
※また、調査について集や郵送での返答も歓迎いたします。
※また、調査について集や郵送での返答も歓迎いたします。

記入者氏名 氏名 性別 年齢

1. 調査対象が下記に該当します。

フリガナ	この世帯に 住んでいる人
世帯主	(TELAR)
同居の家族	(TELAR)
同居の家族以外	(世帯の世帯主以外)
同居の家族以外	(世帯の世帯主以外)

世帯主以外の住所

住所は必ずしもこの住所である必要はありません。世帯主が世帯主として記入してください。

宮城県・(市町村名を差し込み印刷)



I はじめに

アルコール依存症者



多量飲酒者



支援者の関わりの現状

個別支援（見守り）
専門治療につなぐ
断酒会につなぐ ...

お酒はほどほどに…
飲み過ぎないでね。

HAPPYプログラムとは

Hizen **A**lcohol **P**revention **P**rogram by **Y**uzuriha

肥前精神医療センターが開発した、健康被害の危惧される多量飲酒者やすでに健康を害している多量飲酒者、アルコール依存症の疑われる者に飲酒問題の評価を行い、教育と適切な早期介入・指導を行うための教材とプログラム。

アルコール医療の専門家でなくても使用できるよう構造化されており、使いやすくパッケージになっている。



お酒の単位は「ドリンク」です。

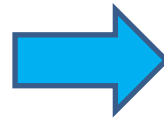
「純アルコール10gを含むアルコール飲料」=「1ドリンク」です。

日本酒 (15%)	ウイスキー (40%)	ビール (5%)	缶チュー ハイ(7%)	焼酎 泡盛 (25%)	ワイン (12%)
1合	ダブル 1杯	ロング缶1 本(500ml)	1缶 (350ml)	0.5合	グラス 2杯
					

それぞれ 2 ドリンク

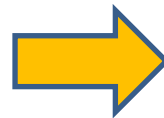
『ドリンク』の目安はあるの？

節度ある
適度な飲酒



2 ドリンク

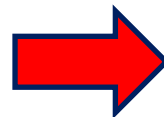
生活習慣病の
リスクを高める量



4 ドリンク(男性)

2 ドリンク(女性)

多量飲酒



6 ドリンク

Ⅱ 活動内容

HAPPYを活用した個別支援

男性 73歳 H27.10月

介入

AST(GOT)	(正常~30)	110 IU/l
ALT(GPT)	(正常~30)	110 IU/l
Γ-GTP	(正常~50)	248 IU/l



2ヶ月後 AST・ALT → 正常値

Γ-GTP → 96 IU/U

Ⅱ 活動内容

HAPPYを活用した集団支援



12月に基礎編



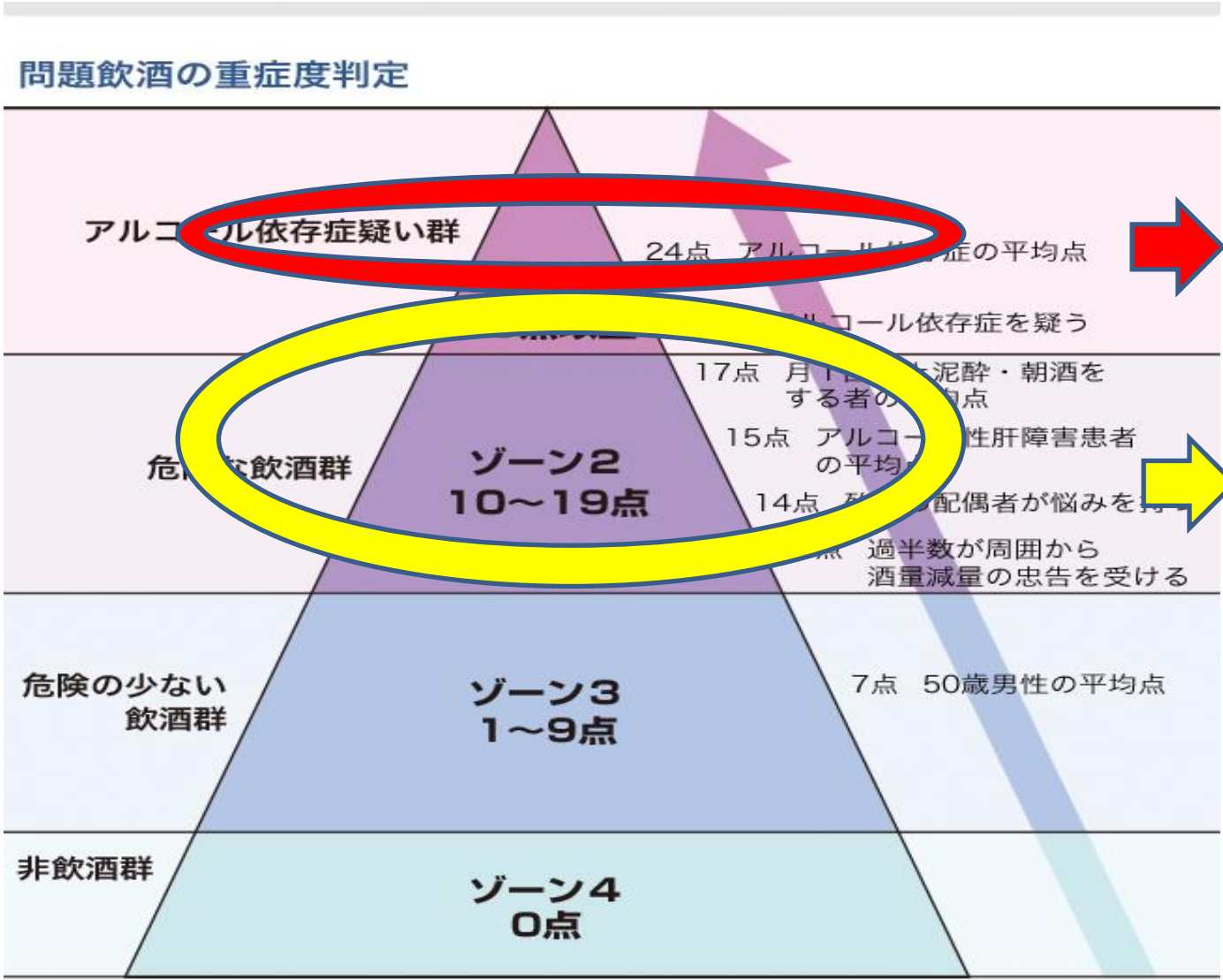
1月に応用編



**年末年始の飲酒量増加を防いだ。
飲酒日記を毎日つける習慣が身についた。**

Ⅱ 活動内容

アルコール関連問題対策研修



研修Ⅰ

専門治療が必要な方への対応の仕方

研修Ⅱ

早期介入における節酒支援について

研修 I

「専門治療が必要な方への対応の仕方」



参加者：30名

内容

- ・アルコール依存症とは
- ・アルコール問題を持つ人に関わるにあたって身につけたい、考え方・接し方
- ・会話の工夫

アルコール依存症者への早期発見・早期介入

研修Ⅱ

「早期介入における節酒支援のメリット」

参加者：73名

内容

- ・AUDIT(アルコール使用障害スクリーニングテスト)の演習
- ・減酒の具体的な目標の立て方と減酒のメリットについて



Ⅲ 考察

- ① 個別支援・集団支援において、対象者の行動変容が見られた。
- ② 減酒支援の介入方法について、AUDIT（ツール）とHAPPY（ブリーフ・インターベンション）について研修し、好評であった。
- ③ アルコール依存症者の支援と共に、減酒支援を中心とした2次予防を進めることでメンタルヘルス対策だけでなく、健康増進にも繋がると考える。

IV 結論

被災地では、見守り活動や健康調査が繰り返し行われており、アルコール関連問題が顕在化しやすい。

支援者がブリーフ・インターベンションを理解し、介入方法を学ぶことで効果的に介入でき、重症化を防ぐことが出来ると考える。

めんそーれ！沖縄！

